

- 1ex., 宇江城, 15. VI. 2010.
8. ベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydemia subfascia subfascia* (Walker, 1858)
5exs., ダルマ山, 14. VI. 2010. 2exs., 嘉手苺, 15. VI. 2010. 8exs., 嘉手苺, 17. VI. 2010.
9. ヒメオオニジゴミムシダマシ *Euhemicera hajimei* (Masumoto, 1983)
1ex., ダルマ山, 14. VI. 2010. 3exs., 宇江城, 15. VI. 2010. 2exs., 仲地, 16. VI. 2010. 1ex., ダルマ山, 16. VI. 2010. 2exs., 嘉手苺, 16. VI. 2010. 1ex., 嘉手苺, 17. VI. 2010.
10. ズビロキマワリモドキ沖縄亜種 *Gnesis helopioides okinawanus* (Nakane, 1968)
1ex., 宇江城, 15. VI. 2010. 2exs., 鳥の口, 15. VI. 2010. 5exs., 宇江城, 16. VI. 2010.
11. ルリスジキマワリモドキ *Pseudonautes purpurivittatus* (Marseul, 1876) *
1ex., 宇江城, 16. VI. 2010. 2exs., 仲地, 16. VI. 2010.
12. カラカネチビキマワリモドキ *Tetragonomenes palpaloides* (Nakane, 1963)
8exs., ダルマ山, 14. VI. 2010. 1ex., 宇江城, 15. VI. 2010. 1ex., 宇江城, 16. VI. 2010. 2exs., 仲地, 16. VI. 2010. 6exs., 嘉手苺, 17. VI. 2010. 1ex., 比屋定, 17. VI. 2010.
13. ハラアカチビキマワリモドキ *Tetragonomenes rufiventris* (Kaszab, 1964) *
6exs., 宇江城, 15. VI. 2010. 1ex., 宇江城, 16. VI. 2010.
14. オオクビカクシゴミムシダマシ *Stenochinus carinatus carinatus* (Gebien, 1914)
6exs., 空港付近, 14. VI. 2010. 4exs., ダルマ山, 14. VI. 2010. 5exs., 宇江城, 15. VI. 2010. 1ex., 嘉手苺, 15. VI. 2010. 2exs., 宇江城, 16. VI. 2010. 1ex., ダルマ山, 16. VI. 2010. 3exs., 仲地, 16. VI. 2010. 7exs., 嘉手苺, 17. VI. 2010.
15. セスジナガキマワリ *Strongylium cultellatum cultellatum* Maklin, 1864
1ex., 空港付近, 14. VI. 2010. 1ex., 宇江城, 16. VI. 2010. 1ex., 嘉手苺, 17. VI. 2010.

16. クメジマキマワリ *Plesiophthalmus kumejimanus* Masumoto, 1987
1ex., ダルマ山, 14. VI. 2010.

引用文献

- 佐藤文保, 1996, 「久米島の自然」久米島総合調査報告書, 26-61.
佐藤文保, 2006, 久米島の昆虫リスト, 久米島自然文化センター, (6) 57-87.

(中村俊彦 104-0045 東京都中央区築地 2-1-12)

【短報】伊豆諸島からのカミキリムシ2種の記録

伊豆諸島のカミキリムシ科甲虫相に関しては、ごく最近、藤田(2012)が近年の記録を含めてまとめ直している。筆者は、その中になく記録として、ベーツヒラタカミキリ *Eurypoda batesi* Gahan, 1894 を利島から、また、キイロアラゲカミキリ *Penthides rufoflavus* Matsushita, 1933 を青ヶ島からそれぞれ採集しているため、古い採集記録も含まれていて恐縮だが、ここに報告する。

ベーツヒラタカミキリ *Eurypoda batesi* Gahan, 1894 (図1)

1♂, 東京都利島北西部. 26-VI-2012.

島の北西部にある清掃工場の灯りに飛来していたものを採集した。ツバキの植林地が大部分を占める利島にあって、この採集地の周辺には本種の生息に適した比較的良好な状態の自然林が残されている。



図1. 利島産ベーツヒラタカミキリ♂。

キイロアラゲカミキリ *Penthides rufoflavus* (Hayashi, 1957) (図2)

1♂ 1♀, 東京都青ヶ島三宝港付近. 17-III-1987 (材採取), VII-1987, 死体回収。

当時、大学の教養生だった筆者は伊豆諸島に通う中で、春休みを利用して青ヶ島に初めての渡航を試みたが、悪天候で当時唯一の渡航手段であっ

た連絡船“還住丸”が連続して欠航してしまいました。諦めきれずに、天候の回復を待ち、3日後に何とか渡航は実現したものの、全体の旅程の関係で、青ヶ島採集は往路の船でそのまま引き返す強行日程を取らざるを得なかった。結局、現地ではクワガタを狙った朽木割りを含め、カ



図2. 青ヶ島産キイロアラゲカミキリ♂(上) ♀(下)。

ミキリの材採集に徹し、船が港に停泊している1時間足らずの間に、港から周回道路に続く急坂を駆け上り(当時、三宝港と集落を結ぶトンネルや架橋はまだ建設されておらず、軽トラがバックでないと登れないほどの急坂であった)、道路脇の疎林の木々の枯れ枝を樹種も問わず片端から切って、それこそ持てるだけ持ち帰ったことを記憶している。本種はそうした枯れ枝の中から羽化脱出したものであるが、うっかり採取した枝材をうっかり数ヶ月放置してしまったため、詳細な羽化脱出日は不明である。その上、気付いた時には、すでに死体はボロボロになってしまっていた。なお、同日に島で採取した枝材群からはリュウキュウヒメカミキリ *Ceresium fuscum fuscum* Matsumura et Matsushita, 1932 やチャイロヒメカミキリ *C. simile flavopubescens* Kusama et Takakuwa, 1984 も羽化脱出した。

末筆ながら、伊豆諸島におけるカミキリムシの記録の詳細をご教授くださった上に、本記録の発表を勧めてくださった藤田宏氏に感謝申し上げます。また、2012年の利島調査は日本学術振興会からの科研費の補助(No. 24510333)を受けて実施したものである。調査の機会を与えてくださった本研究の代表者である東京農業大学の小島弘昭教授にもお礼申し上げたい。

引用文献

藤田 宏, 2012, 伊豆諸島のカミキリムシ相(中間報告)(上), 月刊むし, (492): 18-30.

(荒谷邦雄 九州大学大学院比較社会文化研究院)

【短報】岡山県におけるキイロコガシラミズムシの記録

キイロコガシラミズムシ *Halipplus eximius* Clark, 1863 (図1) は、コガシラミズムシ科ヒメコガシラミズムシ属に属する水生甲虫で、ため池や水田などの止水域に生息する。本種は「環境省第4次レッドリスト」で従来の準絶滅危惧(NT)から絶滅危惧Ⅱ類(VU)に格上げされており(環境省自然環境局野生生物課, 2012), 全国的に減少している。岡山県からは山地(1989)が岡山市で記録した1例のみが知られ(山地, 2012), 「岡山県版レッドデータブック 2009 動物編」では情報不足(DD)に選定されている(岡山県生活環境部自然環境課編, 2010)。筆者らは、岡山県で20年以上記録が途絶えていた本種を採集したのでここに報告する。

6exs., 岡山県赤磐市山口, 29. IV. 2013, 筆者ら採集・保管(同定資料: 中根, 1987)。

本種が確認されたのは、水田に設営された幅40cm程度の明渠であった(図2)。個体密度は低く、筆者ら2人で約1時間の採集を行い、確認されたのは6個体のみであった。その他、チビゲンゴロウ、マルチビゲンゴロウ、ヒメガムシ、キイロヒラタガムシが少数確認されたのみで、水生甲虫はほとんど確認されなかった。一般的に、コガシラミズムシ類は食植性とされているが、生息地の植生は乏しく、落ち葉が堆積した上に、少数のアオミ



図1. 岡山県産キイロコガシラミズムシ *Halipplus eximius* Clark, 1863.



図2. キイロコガシラミズムシの生息環境。